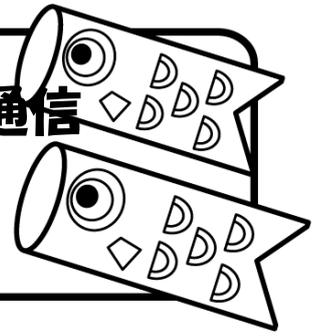


青木村子どもはつらつネットワーク通信

平成30年度 第152号 5月1日
青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行



今月号では、今年度の保小中の重点目標を保育園長、小中学校長にお伺いしました。



平成30年度 青木村保育園の保育目標

園長 若林 喜信

桜の開花とともに始まりました新年度も早一か月を過ぎようとしています。

保育園では本年度、22名の新しいお友達を迎え、89名でのスタートとなりました。暖かな陽気が続き新入園児もみんなといっしょに外遊びや、お散歩などで保育園の生活にも少しずつ慣れてきたように見受けられます。保護者の皆様にはお子さんを温かく見守っていただき、楽しい園生活が送れますようご協力をお願いいたします。



保育園では本年度も『明るく元気に遊べる子』を保育目標に活動を進めます。

そして次のような姿をめざして、子どもたちに寄り添いながら保育に取り組んでいきます。

- 1、 明るい子・・・素直で心温かな、他人を思いやれる子
- 2、 元気な子・・・少々のことにはへこたれない、健康な身体と心の子
- 3、 遊べる子・・・ルールを理解し、色々な人と関われる子



その実現のためには村で定めた『あおきっ子教育ポイント5か条』の目標にも掲げている早寝・早起き・朝ごはんを習慣づけ、基本的な生活のリズムを身につけることを目標にします。



基本的な生活習慣については、日常生活の基本となる「食事」

「睡眠」「排泄」「清潔」「衣服の着脱」「あいさつ」などの生活習慣の習得に向けて、子どもたちに寄り添いながら取り組んでいきます。体づくりについては、従来からすすめています。「外遊び」により全身を使って思い切り体を動かし、自然の中で色々な事を体験し心も体も成長できるように努めたいと思います。また、「散歩」にも多く出て、地域の自然や歴史などに沢山触れることも大切にしたいと考えます。子どもたちを見かけましたら、気軽に声を掛

けていただくと幸いです。

小学校入学前の幼児期は、子どもさんの成長の中でとても大切な時期にあり、この時期に適切な支援を受けられる体制づくりが求められています。村では教育委員会にカウンセラーを配置し保育園にも定期的に訪問してもらい、子どもたちの育ちの確認や職員の相談や指導にも助言をいただいています。専門的な視点で保護者の皆さんの相談にも対応が可能ですので、気軽に声をかけていただければと思います。

保育園では子どもたちの育ちの大切な時期に関わる事ができることに喜びを感じながら、職員一同協力し保育にあたりますので、保護者の皆様をはじめ地域の皆様方には色々な場面で保育園の活動にご支援ご協力をお願いいたします。



平成30年度 青木小学校学校運営の重点

校長 小林 秀樹

今年度より青木小学校にお世話になります。校長の小林秀樹と申します。これまで本校が地域の皆様とともに取り組んできた「青木の子は青木で育てる」を基本に据えた、青木らしい先進的な特色ある活動を本年も大切に継続させていきたいと思えます。この活動を通して、心豊かでたくましい「あおきっ子」育成のため微力ながら精一杯努めて参ります。どうぞよろしくお願い致します。



平成30年度は入学した33名の1年生と9名の新しい先生方を迎え、全校児童219名、職員29名でスタートしました。「青木から夢を未来に」を合い言葉に学校教育目標「あかるい子、かしこい子、たくましい子」をめざして、今年度の重点目標を次のようにしました。子どもたちと大切にしたいことを確認し、学校全体で取り組みます。

今年度の重点目標

「あいさつ」 自分から進んで明るくあいさつし、
自分とまわりの人の気持ちをつなげよう。

ポイント 「自分から進んで。」友だちや先生、地域の方に自分からあいさつすることで心が通い合う気持ちよさを感じたいです。



「学び合い」 自らの問いをもとに、友だちと関わりながら
自分の考えを深めていこう。

ポイント 「友だちと話し合い、友だちのよさに学びながら考えを深めていきます。」納得できるまで粘り強く追究します。



「無言清掃」 気づきの掃除、自分の心も磨いていこう。
ポイント 「よごれを見つける。」おしゃべりをしていると、よごれを見落としてしまいます。一人になって、校舎と心を磨きます。



「体づくり」 自分の力を知り、めあてを持って体を動かし、健康な体をつくろう。

ポイント 「身体を動かすことが楽しい。」と感じ、生活の中で実践する力を育てることで健康な体をつくります。



4つの重点目標に具体的な姿をポイントとして付け加えました。学校教育活動全般にわたって定着することを目指して取り組みたいと思います。変化があった姿や向上した姿が子どもたちの様子に見られましたら、ご家庭や地域の皆様から認め励ましていただけると幸いです。

ご家庭や地域の皆様と手を携え、ともに子どもたちの教育に真摯に取り組んで参りたいと思います。ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



平成30年度 青木中学校教育活動の重点

校長 依田 俊一

50名の新1年生、11名の新しい先生方を迎え、全校生徒117名で平成30年度がスタートしました。今年度も引き続き、国際交流や伝統芸能、アイリスセミナー、ゴテラ（午後の寺子屋）やウィークエンドスタディ、少人数学習学力向上のための取り組み、PTAや保小中一貫教育など、様々な特色ある学習活動を引き続き展開したいと考えておりますが、それらはどれも“青木の子どもたちのため”に、村をあげて応援していただくものです。学校運営にあたり村費の先生をあていただいていることも大きな力となっており、感謝しております。以下、今年度の教育活動の重点を中心に述べさせていただきます。



1、5つの実現したい姿

学校教育目標「強い意志・思いやり・郷土愛」を体現する生徒の姿をイメージし、何年もかけて職員も生徒も右の5つを目指しています。継続することが大変難しいことであるからこそ、これらが特別（青木ブランド）であり、学校への誇り（青木プライド）であります。今年度も大事に取り組んでまいります。

5つの実現したい姿

- ①学び合い
- ②伝えよう、心の挨拶
- ③心を磨く清掃
- ④心に響く歌声
- ⑤心を耕す読書

2、安心・安全の学校生活をもとにした「自己肯定感」の育成

『授業づくり』『集団づくり』を今年度も継続して取り組んでいきます。成果が出てきていますのでさらに質をあげていきたいと思っています。生活全般にわたって「ありがとう」「うれしいな」「助かったよ」といった温かな言葉が交わされる学校を目指し、まず職員が率先して取り組み、安心でき活気ある集団づくりを進めて参りたいと思います。特



に授業づくりでは「学び合い」をより具体的に位置づけていくよう努めていきたいと考えております。

3、今年度の重点「認め合い、学び合い、助け合い」

この3つを重点として合い言葉としたいと考えています。本校では、今までも青木小学校と共に、「学び合い」を大切にして来ました。継続していきたいと思っています。

次に「認め合い」です。小さい頃からお互いのことをよく知る仲だと、とかく同じであることが仲間だととらえがちかも知れませんし、一方もうそれぞれが違う実力をつけ素晴らしい行いをしていたとしても気づかないでいるかも知れません。あらためて周りの人たちのよさをお互いに見直してほしいという願い、それが認め合いです。さらに、生徒会や各係での活動、道徳や総合的な学習の時間で学ぶことの内容を関連させて取り組むことに力を入れ、それぞれの持ち場で頑張っている者に光を当てていきたいと考えています。

また、「助け合い」についてですが、もとより困っている人を思う行動を自然に起こせる生徒が本校にたくさんいることを大変有り難く思っております。そこで、仲間と助け合うことをさらに発展させる視点で、地域の助け合いの輪に加わる、貢献する、ということ意識していきたいと思ひます。私たちは村の方々からたくさんの応援、支援をいただき、学校の設備なども充実しているわけです。恩返しという意味も含めて、地域の助け合いの輪に入っていこうとすることもとても大切ではないか、と考えています。



我々職員は、生徒の皆さんの成長と共にありたいと切に願ひます。生徒の皆さんにとって必要なことを見極めながら、柔軟な学校運営に努めてまいります。ご心配なことがありましたら何とぞご相談ください。中学校職員一同、精一杯頑張ります。保護者、地域の方々、教育委員会、村当局のご理解とご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。



今年も新年度が始まりました。おおきっ子たちをみんなで見守り、学校を応援していきましょう。

今月号と一緒に「平成30年度青木村の教育」「おおきっ子教育ポイント5か条」を配布いたしましたので合わせてご覧ください。

